

分野	主要な道路の整備			事業番号	38	事業名	道路改築(国道一般改築)			
市町村名	茅野市	ふりがな箇所名	(国)152号 湯川バイパス			事業年度(完了年度は見込み)	年度~	年度		
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	道路築造工L=2,600m W=6.0(10.0)m				H23年度末事業進捗率	0%			
	H24年度以降実施内容	同上				本工事費等ベース	0%			
	H24年度実施内容	-				用地補償費ベース	0%			
	年度	全体事業費	H22年度まで	H23年度	H24年度	H24年度以降残				
財源内訳	事業費計(千円)	1,700,000	0	0	0	1,700,000				
	国庫支出金	1,020,000	0	0	0	1,020,000				
	その他									
	県債	612,000	0	0	0	612,000				
	一般財源	68,000	0	0	0	68,000				
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価		ランク	評点		
	必要性 (30)	計画交通量	10,000台/日以上		1,500台以上~10,000台/日未満	1,500台未満	A	2		
		代替道路	唯一の道路である		代替となる道路がある			3		
		ネットワーク (道路網)	駅やインターチェンジが20km以内にある		駅やインターチェンジが20km以上にある	駅やインターチェンジに通じる路線でない		5		
			通行不能区間、冬期通行規制の解消又は市街地の活性化に資する路線である		山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセスに寄与する	山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセス、市街地の活性化に寄与しない		5		
			観光地に通じる道路		観光地に通じる道路ではない			3		
		各事業特有の必要性(安全の確保)	5.5m未満又は6.0m未満又は6%以上(幅員、半径、勾配)		5.5m以上6.5m未満(幅員)	6.5m以上(幅員)		4		
			自動車と自転車・歩行者との分離を図る		歩道はあるが不十分であるものを再整備			自動車と自転車・歩行者との分離がなされていない		2
	小計						24			
	重要性 (15)	関連計画との整合	県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(2個以上)		県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(1個)	該当なし		0		
		設計上の環境・景観配慮	環境・景観配慮がされ確実性が高い		環境・景観配慮がされているが確実性が低い	環境・景観配慮をしていない		0		
		地域の法的な位置付け	緊急輸送路(1次)に位置付けられている		緊急輸送路(2次)又は、振興山村、積雪地域、過疎地域、地震防災対策強化地域、観光圏整備実施計画認定地域に位置付けられている	特別な位置づけはない		5		
		小計						5		
	効率性 (15)	費用対効果	B/C(3便益)1.0以上		B/C(3便益)1.0未満(3便益以外の観点から一定の効果が見られる)	B/C(3便益)1.0未満		3		
		事業効果の早期発現(H24以降残事業年数)	事業年数 5年未満		事業年数 5年~10年未満	事業年数 10年以上		3		
		コスト縮減	全体的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。		部分的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。	コスト縮減はしていない		0		
		小計						6		
	緊急性 (20)	安全性の向上	交通事故や落石等の危険箇所の安全を向上させる		交通事故や落石等の危険箇所指定はないが安全を向上させる	交通事故や落石等の危険がない		6		
		各事業特有の緊急性(渋滞対策・環境保全)(医療・福祉・教育)	渋滞箇所又は騒音・振動箇所が緩和する		渋滞箇所又は騒音・振動箇所ではないが、朝夕の局部的現象を緩和する	渋滞対策又は騒音・振動対策ではない		5		
			医療・福祉の連携が発揮できる道路(ネック箇所の解消)		医療・福祉の連携が発揮できる道路(円滑化が図れる)		医療・福祉の連携に関係ない道路		5	
		小計						16		
	計画 熟度 (20)	地域からの要望	地域住民の内発的な要望が強い		市町村からの要望	特に要望がない		5		
		事業情報の共有	関係者以外に広く周知		関係者中心に周知	特に周知していない		0		
		住民参加の状況	住民が計画策定に直接参加		住民や市町村の意見を計画策定に反映	特に住民意見は反映していない		4		
小計						9				
費用対効果(B/C)		6.6		評価の合計		B	60			
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は白樺湖、霧ヶ峰及び蓼科高原等へ通じる観光道路であり、かつ地元住民の重要な生活道路でもある。当該区間の芦ヶ沢地籍ではピーナスライン(県道)と複雑に交差しているため、休日を中心に混雑が激しく、併せて道路幅員が狭小であるなど、地域住民の日常生活に支障を来しており、根本的な交通網の整備が望まれている。								
	地域からの要望経緯	平成14年11月 茅野市観光連盟から諏訪建設事務所長へ要望。平成15年3月 湯川区から諏訪建設事務所へ要望 平成15年5月 北山柏原区から諏訪建設事務所長へ要望。その後毎年各区より要望が出されている。								
	事業説明等の経緯	平成13年4月より国道152号バイパス研究会を発足し、平成13年8月、平成14年3月、平成14年4月と地域住民と意見交換を行いながらルートを地元で周知してきているが、平成23年にルート等を見直ししており、継続して意見交換を行う予定。								
	環境・景観への配慮項目	既存の道路(県道・農道等)を極力利用することにより、地形の変更を抑える予定。								
	他事業・プロジェクトとの関連	広域農道整備事業。								
特記事項	当該路線は、中央自動車道諏訪ICから白樺湖に通ずる観光路線であるが、観光シーズンには交通の増大により、観光・生活両面で交通に支障を来している。観光の多様化がうたわれている中で、目的の魅力だけでなく快適なアクセスや広域観光への寄与が重要な要因になっている。当地方の優れた観光資源を活用し、また安全な住民生活を確保するために整備が必要である。									
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他					
部意見	事業の必要性及び緊急性は高い。平成23年により効率化を求めてルート等を見直したことにより、今後住民との合意形成を行う必要があるため、事業化を見送りたい。			政策評価課	意見		計画熟度がやや低い。			